

## 施設更新の検討状況 計画の4割 ～ 遅れの要因は丁寧な仕事 ～

1970年代前半～1980年代前半にかけて集中的整備された施設の更新(建て替え)について、計画的に取組を進めるため、公共施設等総合管理計画や個別施設計画(個別施設編)等が策定されました。施設の更新にあたっては、改修・集約化・複合化・廃止なども含めて検討することになっています。2025年度までに全ての更新検討対象施設について、一定の方向性を示すとしていましたが、12月議会の答弁において、「すべての対象施設の方向性を示すことは困難な状況」と答え、計画が遅れていることを認め、その要因をどう考えているのかと聞くと、市は、「複雑で多くの調整プロセスを丁寧に進める必要があり、それらを着実に進めていくのに時間を要していることが主な要因」と答えました。

### 【更新対象施設】

★印は計画通り方向性が示された施設

大分類	中分類	更新対象施設	内容
学校教育施設	市立小学校	仙波小学校(部分)	更新の検討
		古谷小学校(部分)	更新の検討
	市立中学校	東中学校(部分)	更新の検討
		大東中学校(部分)	更新の検討
文化・スポーツ・観光施設	スポーツ施設	初雁公園野球場	更新の検討
福祉施設	市立保育園	古谷保育園	★更新の検討
公営住宅	市営住宅など	月吉町団地(一部)	★更新の検討
		藤倉団地	★更新の検討
		笠幡団地	★更新の検討
行政関連施設	市民センターなど	芳野市民センター	★更新の検討
		古谷市民センター	更新の検討
		山田市民センター	更新の検討
	環境衛生関連施設	環境衛生センター	★更新の検討
	給食施設	今成学校給食センター	更新の検討

★※霞ヶ関北公民館については、別に更新の検討が進められている。

※公園施設については、「川越市公園施設長寿命化計画」に基づき対応する。

## 川口けいすけの主張

これまで私は、公共施設マネジメントは川越市の何処にどんな施設が必要で、何が市民に求められ、持続可能な街づくりを考えた上でどこまで市民の期待に応えられるのかという『未来の街づくりを考える作業』だと述べてきました。

そして、市全体で考え結論を出していかなければならないこれらの問題を、どのように検討していくのかを繰り返し質してきました。複雑で多くの調整が必要であろう問題であり、多くの時間を必要とする問題であるからこそ、計画的な検討作業を求めてきましたが、残念ながら平成25年3月に初めて議場で公共施設マネジメントについて触れた時から11年間、同じようなやり取りを繰り返しています。

その間、いくつかの施設は施設の更新時期を迎え、更新が行われました。果たしてそれらの施設は、どこまでの検討の上で結論が出されたのか。個別施設計画等いくつかの計画が策定されたものの、未だに部署間で理解や解釈には差があり、危機感にも温度差があるように感じています。公共施設面積の約7割が建設後30年を経過し、施設の老朽化が進んでいます。道路、橋、上下水道等のインフラ施設を含め、将来の施設のあり方を考え、長期的な視点で効率的な経営・管理を行っていく事が必要であり、本市の最も大きな課題であると考えています。

2025年度は、これらについて10年間の対応方針を定めた川越市公共施設等総合管理計画の最終年であり、次期計画が示される年でもあります。遅れている計画の進捗と今後の進め方について、特に注視してまいります。